

西原村地域包括支援センターにおける支援活動報告

東京社会福祉士会 山本健明

7月27日から8月2日にかけて熊本県西原村の地域包括支援センターに入り、被災者への支援活動をしてきました。西原村は一番被害が多かった益城町の東隣で、人口7000人弱の村です。阿蘇山を望む雄大な景色や阿蘇ミルク牧場などもあり、観光地でもあります。私が行った時は、ほとんどの方が仮設住宅に移られ、避難所1カ所のみという状況でした。仮設住宅も避難所も役場から歩いて数分のところにあります。



西原村地域包括支援センターは主任ケアマネと社会福祉士の2名という少ない人員で運営されており、被災された大変な状況のなかでとても忙しく活躍されています。

私以外に鹿児島県社会福祉士会から1名派遣され、また、災害看護の団体から保健師、あるいは看護師が派遣されていました。保健師と一緒に訪問することもあったのですが、健康面や服薬のアドバイス、血圧測定などがその場でできるのはとても良かったです。



活動内容は包括支援センターの職員の指示のもと、仮設住宅や在宅にお住いの高齢者宅を訪問し、基本情報シートという調査票に従い調査を行うことがメインでした。また、必要な場合は各種支援のコーディネートを行いました。基本情報シートは、元の住所、疾病、通院先と通院頻度、薬、ADL、IADL、社会参加、近所付き合い、頼りになる親族、経済状況などかなり細かい内容でした。最初はオープンクエッションをしながら自然な形で聞き取りをしましたが難しく、調査票を見てもらいながらクローズドクエッションで聞き取りを行いました。クローズドなので尋問調にならないように気を付けましたが、気分を害される方はおらず、快くお答えいただく方ばかりでした。おそらく日ごろから村役場や包括支援センターへの信頼があるからなのではないかと思います。

東日本大震災ではこの時期は悲しみを訴える方がとても多く、訪問調査しながらも時間をかけて傾聴しなければならなかったのですが、今回は大変な状況はお話しされても、悲しみを訴える方はいませんでした。被災状況の違いからなのでしょうか。

中には支援を受けることに拒否感が強い方もいらっしゃいましたが、保健師と連携して、

少しずつ不安を解消しつつ、災害ボランティアセンターの協力も得て、支援を受けることで生活が改善していくことを実感してもらいました。

毎週金曜日に包括支援センターで、役場、社協、ケアマネ、特養など関係者が集まり、情報共有会議が開かれていました。我々からも気になる高齢者の報告をさせていただきました。

西原村は役場、社協、地域包括、NPO など様々な機関の連携がとても良く、情報も共有もされているため、支援がとてもやりやすかったです。

支援活動に参加して思ったのは、特別なことをするのではなく、日ごろと同じようにソーシャルワークを丁寧に行えば良いということです。難しいものではありません。熊本は瓦礫が片付いていないところも多く、まだまだ大変な状況にあります。皆さんもぜひ支援活動に協力していただきたいと思います。



(この活動は Yahoo!基金から助成を受けています。)